



号外 日進北小だより

令和4年6月8日 特別号

電話 048 (663) 1842 FAX 048 (663) 9884

<http://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標：心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する
～日本一 すてきなあいさつ 日北っ子～

日進北小もコミュニティ・スクール(CS)となりました。

CS推進に係る横断幕フレーズを募集します。

校長 平塚 信也

令和4年度からすべての市立学校でコミュニティ・スクール(CS)制度が実施されました。CSとは学校運営協議会を設置した学校のことを言います。今回CS推進に係る「横断幕掲載フレーズ」の募集をしますので改めて号外で説明させていただきます。

CSは「学校と地域が一緒になって子どもたちを育てる」ための組織、「学校という場で子どもたちも地域の大人達も楽しい時間をもつ」ための組織です。

今、子どもたちに、自分の足で立って将来を生き抜いていく「社会を生きる力」をつけさせるためには学校の学習だけで完結することはできません。学校と地域が協働して子どもを育てることで、子どもたちは地域とつながりを持った社会で生きる大人へと成長していきます。そのためにはみんなが教育を自分事として少しずつ力を出し合い子どもたちを社会総がかりで育てなければなりません。

そのために「地域と一緒にできることをやろう」と考えました。

今までは「学校が〇〇したい。だから地域の人に手伝ってもらおう」か「地域で子どものために〇〇してあげる。だから学校も協力してほしい。」というどちらかが主体で、どちらかがお客さんという場面が多かった様に思います。そうではなくて、子どもを真ん中にして学校と地域が一緒になって活動する。それがコミュニティ・スクールです。

学校が核として、とにかくみんなができることをやってみる。そして、賞賛しあう。そうしたことを通じて地域と学校の絆、住民と住民との絆、子どもと大人との絆を作りたいと考えています。

というわけでCS推進に係る横断幕フレーズを募集します。

- ・地域の方、保護者、教職員、5・6年生児童から募集します。
- ・例として
「地域は屋根のない学校だ」「地域と共に」「学校を核とした」(見沼小・さいたま市のパンフレットから)「みんなが教育の当事者です」「まちづくりは人づくり、人づくりは未来づくり、未来づくりは教育から」(三鷹市のパンフレットから)
- ・文章としてまとまったフレーズでも、フレーズに入れたい言葉だけでも構いません。
- ・児童会や学校運営協議会でアレンジさせていただく場合もあります。

裏面をご覧ください、ぜひご応募よろしく申し上げます。

なぜ学校と地域社会は連携しなくはいけないのか。

- ・学校があまりに多くの課題を担いすぎていて教員が過重労働に陥っている事
(学校・家庭・地域がそれぞれで果たすべき役割を今一度問い直すこと)
- ・誰かが何とかしてくれるのでなく、自分たちが『当事者』として、自分たちの力で学校や地域を創り上げていく。
- ・地域の子として育てていく。
- ・教員がだけでできるというマインドを変え、一緒にやった方がもっと深い学びになる場合があることを理解しない限り、協働は進みません。
- ・取組みを持続可能なものにするという点はコミュニティ・スクールの強みの一つ
- ・地域というのは現場何です。
- ・あれもやらない、これもやらないと学校が言い続けた結果として、社会とのつながりを知らないまま大人になっていく人が増えている。
- ・先生が地域への感謝を言葉にすると同時に、地域側が先生の良いところを見つけたら言葉に出すこと。

んで現在の学校評議員制度は、校長が必要に応じて学校運営について意見を聞くことに主眼をおいた制度でした。意見もあくまで評議員個人の意見としてお伺いしました。一方、これからの学校運営協議会においては、地域住民や保護者が学校運営に参画し、連携・協働して直接関わる仕組みとなります。「校長の考える学校運営に関する基本的な方針についての承認を得る」ことから始まり、「地域でどのような子どもたちを育てていくのか」、「そのために地域は、保護者は、学校は何を実現していくのか」等を本音で議論して決めていきます。学校運営協議会のこうした意見は、地域住民や保護者等の代表による合議体としての意見として出されることとなります。

第2回の学校運営協議会準備委員会では、子どもに身につけさせたい力・子ども像として「あいさつのできる子」「思いやりのある子」「自律(立)心を持って行動できる子」「意欲的にチャレンジできる子」という意見がまとまりました。「あいさつ」についてはこの2年間重点として取り組んできましたが、「校内ではあいさつができるが、地域ではできない。」というご意見は学校評価のたびに指摘されたところでもありました。「学校のみでできることは限られている。地域や保護者を巻き込んでいかなければ前に進めない。」と私も考えていました。できうる限り多くの地域住民の方々に学校と地域への関心をもってもらい、学校と地域が抱える課題を一緒になって解決していくことが、コミュニティスクールの意義であると考えます。以前受講した研修で講師の先生が全国で集めたコミュニティスクール校長の印象に残った言葉を紹介してくれました。

「信じて語り、教職員や保護者を納得させる。」

「やることは増えたけど、やらなくてよいことはもっと増えた。」

「目に見えて子どもがよくなっているから継続できる。」

「新しいことについてはメリットとデメリットが半々くらいなら敢えて取り入れる。」

「校長として判断に迷う問題が発生したときに委員が背中を押してくれる。」

「わからないところ、見えないところがわかるようになった。」

などでした。是非、本校もこのような言葉が当てはまるコミュニティスクールになり、子どもも大人も、学校も地域も元気になることを目指していきます。一層のご協力をお願いいたします。

学校の職員は何年かすると異動になります。地域の方はずっとお住まいになり学校とともに生活していくこととなります。ですから、地域や保護者の願いや思いが生かされる学校を作っていくということです。

現在の準備委員会の方を中心とさせていただきますが、より広く募集し、とにかく会議に出席し、学校を良く理解しながらも時には批判も口にしてくれる人生経験のある顔なじみの地域住民の方を募集します。自薦、他薦結構です。一度お話を伺わせてください。是非一緒にコミュニティスクールを作っていきましょう。事でしょうか。

コミュニティスクールはそれを実現する仕組みでもありそのことを広く周知していく必要があります。

コミュニティスクールを核とした学校づくり・地域づくり

さいたま市は、学校、家庭、地域の連携協同により、コミュニティスクールを全校において実施し、「生涯の学びを通じて、自分とまちが輝く未来」を作っていきます。

熟議と協働のプロセスにおける学びと行動の循環によって人間的な成長を促す「人作り」人との出会いによりネットワークが広がる「つながりづくり」つながりから生まれるボランティア精神やエネルギーが「元気な学校づくり・地域づくり」、ひいては「未来づくり」へと発展していく。

まさに人生は想定外の出来事の連続です。それら乗り越えるためにも、学んだことや経験を生かし、知恵を出し合い、力を合わせていく「協働」が大事です。

熟議とは多くの「教育の当事者」による「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決を目指す対話のことで活発な議論により的確に多くの意見を反映することができます。「地域でどのような子どもたちを育てていくのか」、「そのために何を実現していくのか」という目標やビジョンを共有することが熟議の目的です。

「協働」とは学校と地域で共有した目標やビジョンに向かって対等の立場で協力して共に働くことです。「熟議」を通して構築した学校と地域との信頼関係を基盤に地域住民や保護者等が計画段階から参画することが重要です。

学校の職員は何年かすると異動になります。地域の方はずっとお住まいになり学校とともに生活していくことになります。ですから、地域や保護者の願いや思いが生かされる学校を作っていくと言うことです。日進北小学校も70年という月日を地域とともに過ごしてきました。70年間の卒業生を輩出してきました。また、学校が地域コミュニティの核となることも望まれています。そんな思いを持ってコミュニティスクール制度をスタートします。

現在の準備委員会の方を中心とさせていただきますが、より広く募集し、とにかく会議に出席し、学校を良く理解しながらも時には批判も口にしてくれる人生経験のある顔なじみの地域住民の方を募集します。自薦、他薦結構です。一度お話を伺わせてください。是非一緒にコミュニティスクールを作っていきましょう。

学校運営協議会では合議体として校長の学校運営の方針について意見を述べる

地域と共に子どもを育てる。

メリット

家庭・地域にとって

○保護者にとって地域皆で子どもを育てるという安心感が生まれる。

○地域住民は豊かな人生経験や技能を子どもたちのために生かせることで生きがいが高められる。

○学校を核とした、保護者、地域住民との一層のつながりにより、防犯、防災に強い安心・安全な地域が作られる。

学校にとって

○地域の力を生かした教育活動により、子どもの学びが充実する。

○地域住民の理解と協力を得た学校運営が実現する。

○学校家庭・地域の役割分担が明確化し、学校が「教育」に集中する環境を整える。

日進北小学校学校運営協議会準備委員会委員の皆様

内野本郷自治会会長 白石嘉郎 様

日進3丁目自治会会長 齋藤巖様

日進地区民生委員児童委員協議会 区生活援護部長 大橋令子様

青少年育成日進地区会長 森田 敏男様
日進北小学校PTA会長 渡邊 浩志 様
日進北小学校PTA副会長 江副真由美様
にちきたおやじかい会長 中村哲夫様
聖学院大学助教 仲井勝巳 様
日進公民館館長 山口和伸 様
日進北小チャレンジくぬぎ実行委員会委員長 荒井誠二様
日進北小学校長 平塚信也
日進北小学校教頭 望月 泰志
日進北小学校教務主任 西山 学
日進北小学校地域連携コーディネーター 鈴木 千代子